

知識と実践

生命環境科学研究科 講師 和田 小依里

専門が栄養に関することなので、離乳食はまさに格好の実践の機会です。大学院ではアメリカの栄養学の本を原著で読む講義をしているのですが、日本との食生活を比較するととても興味深いです。日本の離乳食は最初におかゆから始めますが、アメリカでは鉄を強化したシリアルから始めます。子が日本の離乳食に慣れたところに、アメリカのシリアル離乳食を作って、インターナショナルな離乳食と一人で悦に入ったりしてました。

最近では発酵食品の腸内細菌叢改善効果について研究を行っております。「親子間の腸内細菌叢は他人より類似している」ことや「離乳前と離乳後では腸内細菌叢が異なる」ことなどが近年報告されています。「是非、親子のサンプルを採取して自分でも確認したい」と言って夫にあきれられています(近日中に実行予定です)。

共同研究先の病院で、糖尿病内科の男性の医師から「妊婦に低糖質の食事療法を指導し、実行してもらうことは可能か」との相談を受けました。出産経験のある女性医師、管理栄養士で「つわりの時期は炭水化物しか食べたくなかったので難しいのでは」「私は妊娠前と嗜好が変わって甘いものが無性に食べなくなった」などと意見を出し合いました。臨床の現場では理論を述べるだけで

なく実践可能な提案をすることが大切ですので、こういった場面でも自分の経験は生きているなど少しうれしく思いました。

こんな風に、研究が半分趣味のようなもので(研究職の先生方はたいていそうだと思いますが)、ONとOFFははっきりとはしていないように思うのですが、週末に家族でお出かけをすることでストレス発散をしています。子はパソコンが大好きで、仕事をしているところが見つければ、すぐにやってきて大喜びでキーボードをめいっぱい叩きます。とてもかわいいのですが、これでは仕事になりません。書きかけの原稿をダメにされたことも…。以前は時間内に終わらなかった仕事は家に持ち帰っていたのですが、今は勤務時間内にできるだけ集中して計画的に仕事に取り組むようにしています。

現在はまだ時短勤務をしておりますので他の先生方にはご迷惑をおかけしておりますが、理解のある環境で仕事をさせていただくことに大変感謝しております。今後もなんとかワークライフバランスを保って、得られた知識を実践すべく仕事と育児を両立させたいと思っております。

わだ・さより

内科臨床医として勤務後、2008年に長年の希望だった栄養学の研究をするため京都府立大学に赴任いたしました。食品の抗炎症効果に関する基礎的研究やメタボリックシンドローム患者の臨床栄養学研究を行っています。

わたしのおすすめの本

管理課職員 杉田 朋子

ご活用ください! 男女共同参画推進室 図書コーナー

男女共同参画推進室では、情報提供の一環として、「図書コーナー」を設置し、多数、揃えています。貸出も行っています。詳しくは男女共同参画推進室ホームページをご覧ください。



きみは赤ちゃん

川上未映子 文芸春秋

芥川賞作家の川上未映子さんの妊娠、出産、子育てを描いたエッセイ集です。自分が当事者だった頃は雑誌などを読みあさった覚えがありますが、今は何でもスマホで「検索」できる時代。つわりで苦しい時に「つわり いつまで」を1日に何度も検索、とか「赤ちゃんが泣き止む魔法の音」というYouTubeの音源をエンドレスに流して、というのに「へえ、イマドキ」と思ったりしましたが、気になることや悩むことは今も昔も誰でも同じ。「案ずるより産むが易しって言葉があるけど、生むの、ぜんぜん易しくねえよ! 案じさせろや! が実感!」には共感しつつ、そんなに大変だったことなんて、時間がたつとすっかり忘れてるものです。



佐藤可士和の打ち合わせ

佐藤可士和 ダイアモンド社

「楽しく、早く、いい仕事をして、人に喜んでもらって、自分もハッピーになりたい」というトップクリエイターがそこに近づく方法のひとつとして「打ち合わせのあり方」を示しています。打ち合わせの定義に始まり、「かならずしゃべる」「正直に意見をぶつけることで、思いを言語化するトレーニングになる」などの心構えや「すぐに実作業に移れるように具体的に指示し、次にやるべき作業を確認する」ためのファシリテーターの役割、場を盛り上げるための「相手を尊重する」「コミュニケーションセンスを磨く」心遣いなど質の高い打ち合わせにするための様々な方法が披露されています。

編集後記

本学の女性研究者・卒業生のロールモデル集作成のため、11名の方々にお話を伺いました。職業を選択した理由、ライフイベントとの向き合い方、仕事を続けるコツなど、苦労話を期待したのですが(笑)、どの方も、研究・実験・仕事の楽しさ・面白さを語っていただき、私自身、エネルギーを得ました(よい意味で「期待はずれ」ではありません)。そのような体験談を聞ける機会を増やそうと、来年度はライフイベントの有無に関わらず大学の構成員である女性同士が交流できる場づくりも行う予定です。(鈴木)

編集・発行

京都府立大学 男女共同参画推進室

〒606-8522 京都市左京区
下鴨半木町1-5(1号館3階)
TEL: 075-703-5143
E-mail: danjo@kpu.ac.jp
HP: www.kpu-sankaku.jp



Newsletter

京都府立大学 男女共同参画推進室 ニュースレター

Vol.

04

2015.03

女性研究者支援事業が熱いです!

小沢修司 副学長・男女共同参画推進室長

3月3日に開かれた京都工芸繊維大学の女性研究者研究活動支援事業総括セミナーに参加してきました。本学よりも1年早く採択され3年間の活動を終えての総括セミナーでした。「明日は我が身」……来年の今頃は本学も総括セミナーを開くこととなります。教養教育の共同化を一緒に取り組んでいる大学ですし、親近感を持ちながらも緊張して報告に聞き入りました。そして、セミナーが終了。なんと、興奮している私がいきました。

ハイライトは研究支援員制度を利用した3名の先生方の報告でした。制度を利用することによる研究成果向上だけでなく、研究支援員となった院生の成長も語られました。女性研究者支援が活気ある大学に結実していく姿に確信が持てました。「次は本学」……そんな気持ちを新たに返ってきました。

ご存知ですか?

あなたの学科の女性教員比率

常勤教員の男女比率(学科別)

平成27年4月1日(予定)

学科名	常勤教員数			
	合計	男性	女性	女性比率
■ 文学部				22.9%
日本・中国文学科	9	6	3	33.3%
欧米言語文化学科	10	6	4	40.0%
歴史学科	16	15	1	6.3%
■ 公共政策学部				25.0%
公共政策学科	12	9	3	25.0%
福祉社会学科	12	9	3	25.0%
■ 生命環境学部				16.9%
生命分子化学科	13	12	1	7.7%
農学生命科学科	24	23	1	4.2%
食保健学科	12	4	8	66.7%
環境・情報科学科	11	10	1	9.1%
環境デザイン学科	14	12	2	14.3%
森林科学科	15	13	2	13.3%

文部科学省科学技術人材育成費補助事業 女性研究者研究活動支援事業(一般型)

ポジティブアクション



Q1 なぜ、女性研究者の数を増やさなければいけないのでしょうか？

2014年の世界経済フォーラム(World Economic Forum)が発表したジェンダー・ギャップ指数(Gender Gap Index: GGI)によると、142か国中、日本は104位であり、(経済活動の参加と機会が102位、教育が93位、健康と生存が37位、政治への関与が129位)先進国の中でも著しく低い水準にあります。

政府は第4期科学技術基本計画で、平成27年度末までに、自然科学系の女性研究者の採用目標「自然科学系全体としては25% (理工系20%、工学系15%、農学系30%、保健系30%)」を達成し、更に30%まで高めることをめざす」としていますが、達成されていません。

Q2 女性を優遇する取り組みを行うことは、男性への「逆差別」、「法律違反」になりませんか？

職場に事実上生じている男女間の格差を是正して、男女の均等な機会・待遇を実質的に確保するために、事業主が、女性のみを対象とするまたは女性を有利に取り扱う措置(ポジティブ・アクション等)は、法違反とはなりません(男女雇用機会均等法第8条)。

※事実上生じている男女間の格差について、男性労働者と比較して、一定の区分、職務、役職において女性労働者の割合が4割を下回っている場合、格差が存在していると判断されます。

引用：厚生労働省ホームページ「男女雇用機会均等法のあらまし」

Q3 どうすれば、女性研究者を増やすことができるのでしょうか？

①育児や介護などライフイベントとの両立ができる制度や環境の整備、②全学的な意識改革、③女性限定公募枠など女性研究者の積極的な採用、登用、数値目標の設定などのポジティブアクション(積極的改善措置)が挙げられます。

男女共同参画学協会連絡会が行った「第三回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」解析報告書では、「女性研究者採用の数値目標」に対する意見として、

	有意義である	あまり意義がない	弊害がある	拡大・推進すべきである	改善するべき点がある
男性	26.6%	35.7%	21.3%	4.0%	12.4%
女性	35.9%	30.2%	6.6%	10.1%	17.2%

となっており、女性のほうが肯定的に捉えていることが分かります。こうしたことから、意識改革とセットにした、ポジティブアクションの実施が必要であることがわかります。

「第三回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」解析報告書 50P
平成25年8月実施、回答者数 16,314件

Q4 各大学はどんな取り組みをしているのでしょうか？

広島大学

■公募文書に「同等なら女性採用」を明記
各部署等の教員、研究員の公募文書には、「広島大学は男女共同参画社会基本法の趣旨に則り、業績(研究業績・教育業績・社会貢献等)及び人物の評価において、パターン①“同等と認められた場合”、パターン②“優劣をつけたいと認められた場合”は女性を採用します。」と明記

■各部署で女性教員採用割合の目標値を設定(2008年)

京都工芸繊維大学

■女性に限定した教員公募
「男女雇用機会均等法」第8条(女性労働者に係る措置に関する特例)の規定により、女性教員の割合が相当程度少ない現状を積極的に改善するための経過措置として女性に限定した公募を実施し、2014年に7名を採用

岩手大学

■One-Up公募制度
助教を准教授とするなど、上位の職位で公募することが女性研究者の採用に効果的と見込まれる場合に上位の職階で女性公募が可能

名古屋市立大学

■女性教員採用に対するインセンティブ(2013年)
前任者が男性または新設のポストに女性教員(専任)を採用した場合、学内経費によりインセンティブ経費(100万円)を付与。2013年4月採用分で4研究科6名が対象

■各部署における目標・行動計画の策定
年度末には実施状況のヒアリングを実施

大阪府立大学

■プラスワン
女性教員を採用した場合、助教の採用1名をプラスすることが可能。または、事務補助等の人件費を上乗せ補助(2011年度から2013年度のみ実施:5件)

短信 参画推進室 男女共同 活動報告



「京都府立大学 卒業生就業状況 調査」刊行



男女共同参画推進室では、卒業生の就業状況を明らかにし、今後の女性研究者の支援方策や、卒業生との連携の展開を検討する基礎データを得ることを目的に、同窓会の協力を得て、本学としては初めて、卒業生就業状況調査を実施しました(平成25年11月～12月)。

調査では、ライフステージごとの職業キャリアの変化を把握するため、学部卒業後、5年、10年、15年を経過した766名を対象とし、卒業直後の進路、現在の仕事、卒業直後の進路から現在の仕事の変化、仕事と家庭を両立して仕事を続けるために必要なこと等をお聞きしました。有効回答数は276名(女性211名、男性65名)、有効回収率は36.0%と、予想を上回る多くの卒業生にご協力いただきました。調査報告書をご入用の方は、男女共同参画推進室までお問い合わせ下さい。

あおいプロジェクト

第5回 あおいセミナー

「My LIFE ~ Inscrutable are the ways of Heaven ~ 人間万事塞翁が馬」
日時 12月12日(金)13:00～14:15
講師 新納 愛氏(シミック株式会社 臨床開発部)
参加者 17名(教員1名、学生・院生14名、一般2名)

第6回 あおいセミナー

「英語は話せなくても…必要なのは楽観主義、気合いと時々根性?!」
日時 12月12日(金)14:50～16:00
講師 原田 康代氏(東京理科大学生命医科学研究所分子病態学部門テクニシャン)
参加者 16名(学生・院生15名、研究員1名)

第7回 あおいセミナー

「土壌というブラックボックスを放射光で照らす新しい試み～農学系女性研究者の挑戦～」
日時 1月19日(月)15:00～16:00
講師 山口 紀子氏(独)農業環境技術研究所 主任研究員
参加者 19名(学生・院生17名、教員2名)

第4回あおいサロン

「日本の草分け 京都の先輩手話通訳者と共に歩いて」(京都政策研究センター「下鴨サロン」との共催)
日時 12月22日(月)18:00～19:30
講師 小森 典氏(京都府乙訓教育局 企画教育課主査・本学文学部出身)
参加者 22名(学生2名、教職員・府庁職員20名)

学生・院生の交流サロン「たまごカフェ」

第1回「男性研究者が、女性研究者と、生活すること」
日時 11月21日(金)13:00～14:00
講師 中根 成寿(公共政策学部 福祉社会学科 准教授)
参加者 10名(学生5名、院生4名、研究員1名)

第2回「ストレスとの上手な付き合い方～自分のコミュニケーションの癖を知ろう～」

日時 1月26日(月)14:30～15:50
講師 岡 桂子氏(本学学生相談室 カウンセラー)
参加者 9名(学生・院生6名、職員3名)



英語プレゼンセミナー

日時 第1回 2月24日(火)13:30～17:50
第2回 3月13日(金)13:00～17:50
講師 野口 ジュディー 津多江氏(武庫川女子大学薬学部教授)
参加者 第1回 15名(学生・院生9名、教員5名、教室補助員1名)
第2回 8名(学生・院生5名、教員3名)

研究力向上セミナー

第1回「大学における産学公連携のありかた」
日時 3月10日(火)14:30～15:30
講師 立川 正治氏(京都産学公連携機構スーパーコーディネータ)
参加者 31名(学生・院生3名、教職員28名)

意識啓発プロジェクト



流木祭(学園祭)講演会
「私のワクワク仕事術! 女性が社会で働くということ」
共催:同窓会・校友会・講演会
日時 11月15日(土)14:30～16:00
講師 岡田 寛子氏
(京都銀行公務部長・本学文学部出身)
参加者 173名

自主事業報告

広報・運営協力

京都ノルウェーゼミ 20周年記念府民公開特別講義
「ノルウェーの男女平等とそれを支える社会福祉制度」
日時 10月24日(金)10:30～12:00
講師 スノーフリッド・B・エムテルド氏(ノルウェー王国大使館参事官)

ポスター展示

四大学連携研究フォーラム
日時 12月2日(火)13:30～19:30
場所 京都府立大学稲盛記念会館 104 講義室他
四大学(京都工芸繊維大学、京都薬科大学、京都府立医科大学及び本学)連携研究フォーラムのポスターセッション会場の一角で各大学の女性研究者支援、両立支援の取組ポスター展示の企画を行い、東あかね生命環境科学研究科教授(前男女共同参画推進室長)が説明を行いました。

共催

人権委員会主催 教職員対象人権研修
「セクシャルマイノリティと人権」
日時 9月11日(木)、2015年3月5日(木)
講師 特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ

今後の予定

活動予定

研究力向上セミナー
「研究資金獲得セミナー」
日時 3月27日(金)13:00～14:30
講師 塩満典子氏
宇宙航空開発機構(JAXA)男女共同参画室長・新事業促進センター参事

